

平成 26 年第 410 回信濃町議会定例会 12 月会議会議録 (2 日目)

(平成 26 年 12 月 9 日 午後 2 時 05 分)

●議長 (小林幸雄) 休憩前に続き、会議を開きます。

通告の 4 酒井聡議員

1 町長の政治姿勢について

議席番号 7 番、酒井聡議員。

◆7 番 (酒井 聡) 議席番号 7 番・酒井聡です。

質問に入ります前に、11 月 22 日に発生しました長野県神城断層地震、かなりの被害が発生いたしました。町の内外問わず、被害に遭われた皆様方に、心からお見舞い申し上げます。また、白馬村にありましては、信濃町同様、冬の基幹産業がスキー場を中心とした観光であります。風評に負けないように、この冬を乗り切っていただきたい、そういうことをお願いしながら、質問に入らせていただきます。

今回の一般質問は、通告に沿いまして、町長の政治姿勢について伺ってまいりたいと思います。まず、この 11 月 23 日に行われました信濃町町長選挙におきまして、新たに町長として就任されました横川新町長におかれましては、プロフィールにもありました、40 年近い行政職の経験というものを、ぜひとも生かしていただき、町政のために、手腕を遺憾なく発揮していただきたく期待をさせていただきます。

その、選挙中の町長の政治姿勢の大きなテーマ、いわゆるスローガンであります、信頼と活力の町づくりと銘打たれておりました。「信頼」という言葉について、若干伺ってまいりたいと思います。一般的に、町、そして行政との関係というのがございまして、行政の方は福祉、あるいはインフラ整備、産業の育成ですとか指導ですとか、特にこの町は、町立病院も持っております。医療というサービスも加えて行わなければならないところでありまして、それらを分け隔てなく町の皆さんに行い、町の皆さんの健康的かつ文化的な生活というものを維持するために寄与しなければならない、という性格を持っております。一方、町の皆さんは、どういうことかと言いますと、当然のことながら納税の義務を全うしていただくということ、そして条例、あるいは規則、要綱を順守していただく、時に意見具申もしていただきたいと、そういうような町と町民との関係というものがあろうかと思えます。この、お互いの関係の中で、ちょっと言葉の問題になりますけれども、「信用」という言葉がございまして。それよりも、「信頼」という言葉は、数段重い意味合いを持っております。この「信頼」という言葉が使われたことの横川新町長の真意、そしてまた、そこに懸ける所信というものを、改めて伺いたいと思えます。

●議長 (小林幸雄) 横川町長。

■町長 (横川正知) それでは、酒井聡議員さんにお答えをいたします。私、信頼と活力ということで、「信頼」という言葉を一つ使わせていただいております。私も、大辞林という辞書を引きました。「信頼」という言葉は、ある人や物を高く評価して、すべて任

平成 26 年第 410 回信濃町議会定例会 12 月会議会議録 (2 日目)

せられるという気持ちを抱くことという定義がされています。その上で申し上げますと、私自身はこの行政執行に当たりまして、まず一つは、同じ組織の事務補助者たる職員の皆さん方との信頼関係をしっかり築いて、そして町民の皆様にも、この行政が信頼される、そういう町政運営を行いたい、そういう基本的な姿勢の中で、「信頼」という言葉を使わせていただいているものでございます。そしてまた、この議会の議員の皆さん方、またそれぞれ町に関わる行政委員会の皆さん方も、基本的な信頼関係をしっかりと礎としながら、町政運営を行ってまいりたい、そういう思いで、その「信頼」という言葉を使わせていただいているところでございます。そのことが結局、その上に立って色々と建設的な議論をする、そのことが究極的には、町民の皆さん方の住民福祉にもつながっていく、そういう思いから、その「信頼」という言葉を使わせていただいているところでございます。以上です。

●議長 (小林幸雄) 酒井聡議員。

◆7 番 (酒井 聡) そういったところ、大変期待をしているわけでありまして。「信頼」という言葉を使うこと自体に「信頼」を持っていただけるように、ぜひとも頑張っていたきたいと思うわけでありまして。

さて、では通告にしたがって、順々に質問をしてみたいと思います。町長の掲げた重要テーマの中で、過去に私が、昨年 6 月会議から前回の 9 月会議まで、一般質問の場において、当時の町長に質す機会がありました、そういった問題を中心に選ばせていただきました。この中で、町長の重要提言の中にもありました「公共交通の在り方について」、「人口減少対策」、私の場合、そこに更に、集落の維持存続というテーマも付けさせていただいたのですが、それと「有害鳥獣対策」、この三点について、伺ってまいりたいと思います。過去に何回かしつこく質問した公共交通のテーマもありますけれども、特にこの人口減少対策、町長も選挙の中においても、先ほどからの同僚議員さんの質問に対しても、とにかくこれは喫緊の課題であるというような捉え方をされています。私もそうではありますが、今回は、この三点を中心に、伺ってまいりたいと思います。

まず、有害鳥獣対策について、伺ってまいります。午前中の北村議員さんの質問の方でも大分出てまいりました。用意しておりましたものも大分先に聞かれてしまったので、ちょっと色々順序を変えたいと思うのですが、私の場合、特にクマ対策について、この 6 月会議で質問をさせていただきました。今年の出没、あるいは目撃の情報に関しては、県内の他の市町村同様、信濃町におきましても、例年より多かつたのではないかと、それはまず、実感するところであります。12 月に入っても目撃情報があるというのは、極めて異例な状態ではないかと思っております。被害状況に関しましても、農作物の被害は後ほど伺うとしまして、最も心配されました人身事故、これも 2 件、3 名の方、被害に遭われております。マイマイガの大量発生が絡んでいるのではないかと一部でも囁かれておりますけれども、いずれにせよ、これは異常な事態と言わざるを得ないのではないかと思っております。

平成 26 年第 410 回信濃町議会定例会 12 月会議会議録 (2 日目)

町当局の方では、被害状況として、そろそろ取りまとめを行い、あるいは、なされているであろうかと思うので、伺ってまいりたいと思います。今年の被害状況の現状について、伺います。

●議長 (小林幸雄) 伊藤産業観光課長。

■産業観光課長 (伊藤 均) それでは、今年の被害状況、10 月末現在ということで、ご了解をいただきたいと思いますが、クマの捕獲数 28 頭、そのうち捕殺が 18 頭、放獣が 10 頭でございます。それとイノシシの関係は、10 月末で 8 頭ということです。それに、クマ等の有害鳥獣の被害、目撃情報は、87 件に及んでおりまして、昨年が 26 件でございますので、3 倍を超えているということになっております。以上です。

●議長 (小林幸雄) 酒井聡議員。

◆7 番 (酒井 聡) 農作物の被害状況についても伺いたかったのですが。ちなみに、昨年 25 年度のデータが確か 500 万強、511 万だったかと思います。今年の場合は、米、ソバ、どちらかというところと不良、不況とまで言いません、不良に近い状態で、収量が下がっております。それだけ農業被害に対する割合というのが出てくると、それこそ農家の皆さんにも深刻な被害をもたらすわけでありまして。被害額、概算でもかまいません。速報値でもかまいません。分かりましたらお願いします。

●議長 (小林幸雄) 伊藤産業観光課長。

■産業観光課長 (伊藤 均) 被害額でございますけれども、まだ確定がなされておられませんけれども、前年が約 540 万ということで、当然出没数も 3 倍以上越えていますので、それ以上になる見込みです。生食と飼料用とうもろこしが、主な被害になっております。

●議長 (小林幸雄) 酒井聡議員。

◆7 番 (酒井 聡) そういった被害を出さないための方策として、電気柵が奨励されております。一方で、もし出て来てしまった場合、これやはり駆除、あるいは捕獲という方法を取らざるを得ないのが実情であります。そこに関して、後ほど集落の高齢化ということでもちょっと触れますけれども、集落自体が高齢化をしますと、いわゆる荒廃地が生じやすくなると。田んぼ、畑まで手が回らないが故に、荒廃地が生じやすくなる。それで、荒廃地が増えてくると、今度は有害鳥獣とされる野生動物を、山から里の方へ引き寄せ易くなる、こういう悪循環が指摘されています。また、午前中の北村議員さんのお話にもありました、猟友会ですか、駆除に当たる皆さんも、高齢化をしてくている。全てが高齢化をしてくている悪循環であります。データで説明をしますと、昭和 50 年、

平成 26 年第 410 回信濃町議会定例会 12 月会議会議録 (2 日目)

全国の猟友会と言いますか、狩猟の許可証を持っている方、51 万人おられました。そのうち、60 歳以上の方、9 パーセントだとされています。2010 年ですから、平成 22 年、これが全国で総数が 19 万人まで減少しつつ、更に 60 歳以上の方が 60 パーセントを占めている。このままいったら、10 年後、有害鳥獣対策として、銃を持って出て来られる方、果たしてどのぐらいになってしまうのかということが危惧されるわけです。そういったところまで、高齢化というものが、波が押し寄せて来ているわけであります。

駆除作業を来すようになった時に、その悪循環を食い止めるための施策として、今年の 6 月会議で「鳥獣被害対策実施隊」というものを設置してみてもどうかというようなことを説明をさせていただき、提案もさせていただきました。町長、オフトークあるいは議会だよりも、これ私一文載せたんですけれども、まずこの鳥獣被害対策実施隊、承知されていると思いますが、伺いたいと思います。

●議長 (小林幸雄) 横川町長。

■町長 (横川正知) 鳥獣被害対策員というのは、要は、町の非常勤職員として、採用と言いますか、任命をして、対応に当たってもらうということの制度であるということは、承知しております。

●議長 (小林幸雄) 酒井聡議員。

◆7 番 (酒井 聡) 午前中、北村議員さんの質問に対して、まあ個人的な意見と前置きはありましたが、職員の皆さんにも免許を取っていただいて、というようなお話がありました。まさにこれが、そこに当たることであろうかなと思います。説明しながら話を進めてまいります。この鳥獣被害対策実施隊というのが、今町長がおっしゃられたように、非常勤特別地方公務員、農水省の管轄になります。身柄を消防団に例えるというようなことで、分かり易く説明をされております。まさにそのとおりかなと思います。自治体の職員を中心に結成することができ、裏を返すと、必ず自治体の職員を含めなさいという前置きがあるようです。町が現在推し進めております集落等捕獲隊、町長もご存じかと思います。高齢化により機能を失った場合に、町全体で、集落のみならず、町全体でみていこうと、消防団活動のようにみていこうと。こういうような役割を担う、それが鳥獣被害対策実施隊であります。その際にも、これを作ることになりますと、例えば、隊員報酬の基準額ですとか、任免権、条例の整備、あるいは事前の準備、そういった手続きが諸々必要になってくるわけであります。どういった団体であるかということは、町長は理解されていると思いますが、まず、設置する考えがあるかどうか。もし、あったらいいな、でもいいですし、むしろ被害対策実施隊の方に移行してみようかな、何でもいいんですけれども、考えを伺いたいと思います。

●議長 (小林幸雄) 横川町長。

■町長 (横川正知) 先ほども、ちょっとどなたでしたか、北村議員さんでしたかね、申し上げます。今、信濃町における鳥獣被害対策として、一番活躍いただいている信濃町猟友会というのがございます。猟友会の皆さんが、これも先ほど申し上げましたが、昔はもう少し大勢活躍していただいていた。先ごろ、ちょっと猟友会の皆さんとお会いする機会がございまして、その時に確認した時は 21 名で、1 名新しく入ったとかいうような状況で、要は、21~22 名でございます。私は、この実施隊という酒井議員さんからのご提案と言いますか、このことを全く否定する立場にはないのですが、今現状の中で、その猟友会の皆さん方が一生懸命対応に当たっていただいている、このことを大事にしながら、猟友会の皆さん方ともしっかりとまた、そういった方向も含めて話し合いもさせていただいて、ゆくゆく果たしてどうなのかなということも含めて、将来的な見通しの中で、しっかりとまた、猟友会の皆さん方とも話し合いをさせていただく中で、将来に向けての方向性というものを、決めていきたいと思っております。

●議長 (小林幸雄) 酒井聡議員。

◆7 番 (酒井 聡) 町長も替わられてまだ 10 日ほどであります。替わったことによって、こういった行政というものは 90 度、180 度変わるものではないと、それはまあ、いろいろな釣合があります。以前、これを提案させていただいて受け付けなかったから、替わったからもうすぐに受け付ける、そういうことを期待しているわけではないですし、時間を掛けて、これはやっていただきたい。十分関係団体と検討して行って、良い方向に。何が良い方向かと言うと、有害鳥獣対策がしっかりできた町づくりというのが、何より大事であります。町長の思うところの基幹産業は農業と観光、これは本当の中心ではありませんけれども、有害鳥獣というのは農作物に対する被害だけではありません。観光に対してもマイナスイメージを負うところが、かなり大きいと思われております。効果的、かつ組織的な予防策を、今後も講じていただきたいと要望します。

それを要望いたしまして、次に、公共交通に関わる質問に入ります。公共交通に関わる、町、また町長としての姿勢について、伺ってまいりたいと思います。公共交通につきましては、路線バスについては、その在り方について、また鉄道については、来年 3 月のしなの鉄道開業を見据えてこれまで何回か、質問をさせていただきました。特に、鉄道についてですけれども、しなの鉄道から沿線の各自治体に委託された駅業務、信濃町の場合は黒姫、古間の 2 駅があるわけですけれども、町が今度、信濃町振興局という団体に駅の業務委託を行おうとしております。信濃町振興局の本体については、また明日、同僚議員さんから質問がありますので、細部には触れませんが、まず、この方針についての町長の見解を、総論として、伺いたいと思います。

●議長 (小林幸雄) 横川町長。

平成 26 年第 410 回信濃町議会定例会 12 月会議会議録 (2 日目)

■町長（横川正知） しなの鉄道開業に伴う駅業務の関係でございますが、従前と言いますか、前から信濃町振興局というところに委託をして、その運営を基本的に行いたいという方向性ができております。このことは、今までもその観光協会なり、既に一般社団法人として立ち上がっているその組織である振興局も、そのことを、お互いに内諾と言いますか、しながら進めてきているということでございますので、そういう駅業務については、その方向で受託をしていただき、進めたいというのが、今現在の私の考え方でございます。

●議長（小林幸雄） 酒井聡議員。

◆7 番（酒井 聡） 開業まで、もう残りわずかであります。3 か月、4 か月という段階であります。今になってこの方針を、私の方からひっくり返すということになると、とんでもないことになります。それは、まず静観をするということではありますが、とにかく心配なのが JR、国鉄時代も含めて 100 年からのノウハウがあるわけです。これを、今度新団体が、本当に滞りなく事務移管ができるのか、その心配だけ、この一点だけなんですけれども、見解を伺います。大丈夫なんでしょうか。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） 今までの検討経過は、担当課長の方から申し上げますが、私は、大丈夫だという方向で理解をしています。

●議長（小林幸雄） 伊藤産業観光課長。

■産業観光課長（伊藤 均） 総務課の方から、駅業務のしなの鉄道からの詳細をいただきまして、それを理事会等、検討いたしまして、私といたしましても、大丈夫だと思っています。

●議長（小林幸雄） 酒井聡議員。

◆7 番（酒井 聡） しなの鉄道の方では、各駅における運賃表、あるいは定期代も、ざっくりとしたものではありますけれども、公開されております。町長の公約の中でも、高校生の通学定期の補助、こういったところまで言及されております。確かに、この黒姫駅を起点とした場合、牟礼駅まで、北部高校の皆さんが対象ですけれども、往復で 20 円の増になるわけです。これが黒姫から長野駅まで、長野駅ですから、高校生の皆さんという工業、商業、西高、あと私立が 2 校ありますけれども、片道 140 円増、往復で 280 円、これは最近のファストフードで 1 食食べられる値段、それが 1 日ずつ上がっていくわけです。当然、定期券、3 か月、1 か月となると、大変な負担になるかと思えます。

平成 26 年第 410 回信濃町議会定例会 12 月会議会議録 (2 日目)

町長は、これを補助する算段で考えておられると思うのですが、補助対策の詳細を伺いたいと思います。

●議長 (小林幸雄) 横川町長。

■町長 (横川正知) 私自身の公約の一つでもあります。これ 3 月 14 日に JR から移管されて、しなの鉄道として運行される。ご承知のように、その時に、定期代約 1.5 倍というような金額になるわけでありまして、その保護者の皆さん方の負担は大変重くなる、そういうことも含めて長野方面、そしてまた、黒姫駅を起点として越後方面と言いますか、行っている、あるいはそのしなの鉄道ではないのですが、飯山、中野方面等々も行っている子供さんたちがいる親御さんも、みんないるわけでありまして。私は、今そういうことも含めて、もう少し言えば、養護学校へ通っておられるというような方もひょっとしたらいるかなということも含めて、事務当局に、3 月 14 日の運行に間に合うように、ちょっと段取りをしてくれと、こういうことを今、お願いをしているところでございます。その辺をしっかりと見ながら、今どういう金額がお示しできるかということについては、これはやっぱり最初立ち上げに当たっては、行政の場合は、非常に将来にわたって、こういう制度というものは影響すると思いますので、慎重にこの新規の立ち上げに当たっては、財政状況もしっかり踏まえて対応したいということで、事務当局にもお願いをしているところでございます。詳細については、できれば、この議会会期中の議会運営委員会、いわゆる、失礼、全協において、ご説明できればいいなという思いも含めて今、事務当局にお願いをしているところでございますので、ご理解をお願いしたいと思います。

●議長 (小林幸雄) 酒井聡議員。

◆7 番 (酒井 聡) 3 月 14 日が開業であります。3 月一杯、一般的な高校生の皆さん、基本的には春休みに入っております。本格的には 4 月の頭から定期券を購入して、通学に当たるというのが一般的ですので、それに合わせて早いところ、対策を練っていただきたいと思います。今、越後方面という話、町長から出ました。町長は、あちら側の高校には大分造詣が深いかと思えます。確かに、高田方面の私立にも少なからず、通っているお子さんもおられます。とかく、しなの鉄道の値上げの方が先行してしまして、向こうの方の実態、越後トキメキ鉄道の実態はどうかというのは、いまいち信濃町を通して伝わってこないところもあります。最近の最新のデータでちょっと調べたんですけども、越後トキメキ鉄道が乗り越し割引というのを、どうも行いうらしいところでありまして、黒姫から高田までのこれ、高校生 1 か月分の定期代を試算したのもらしいのですが、黒姫から高田まで、高田には私立 2 校ありますから、8710 円のところ、開業した後の双方の運賃を足すと 1 万 3880 円、それが割引というのを、トキメキ鉄道の方でやるらしいのですが、これが 1 万 1780 円。どちらにしても、3000 円近く高くなっ

平成 26 年第 410 回信濃町議会定例会 12 月会議会議録 (2 日目)

てしまうと。これ、しなの鉄道だけを考えて要項を編んだ場合と、こういったケースを要項に盛り込んだ場合、やっぱり複雑化してしまうんですけども、その辺の準備は、町長の方は考えておられますでしょうか。

●議長 (小林幸雄) 横川町長。

■町長 (横川正知) 結論はともかくとして、今の検討課程の中で、そのことも含めて対応をしていただきたいという指示はしてございます。そしてまた先般、12月1日ですか、県の挨拶も含めて、災害の要請行動も含めた時に、その辺の運賃値上げについて、県知事さんの方にも、県としての、何て言いますか、配慮をしてほしいと、こういう要請も行ってきたところでございます。

●議長 (小林幸雄) 酒井聡議員。

◆7 番 (酒井 聡) 例規集をひも解きまして、要綱という点でちょっと一点触れさせていただきますけれども、既に高校生の通学の補助をしている要綱が一点ございます。母子家庭を対象とした補助金であります。通学定期代の2分の1補助というのが、要綱で定められております。ここから先、少し細かい話になろうかと思っておりますけれども、しなの鉄道に移管して、値上がりした場合の起算のポイントです。現状よりも値上がりしたところで2分の1補助をしてしまうと、現行よりも母子家庭の皆さん、負担が増えてしまうわけであります。町長の考えられております補助を講じた上で、更に2分の1補助をして、やっと、とんとんぐらいになるのかなという試算を、私はしているんですけども、どちらにしろ、これは要綱の書き換えが必要になるのかなと思っておりますけれども、母子家庭の通学補助に対しての今後の考え方を、伺いたいと思います。

●議長 (小林幸雄) 横川町長。

■町長 (横川正知) 母子家庭については、その要綱にしたがって、通学補助と言いますか、やっておられる。これを、今のこれからやろうとするところに一緒にすると、むしろその皆さん方については不利になるということが考えられる、ということで、それは、その制度として残すことでいいんじゃないかというような方向で、今事務局的な検討を進めているというところでございます。一緒には、それはなかなかできないだろうと、こういう判断でございます。

●議長 (小林幸雄) 酒井聡議員。

◆7 番 (酒井 聡) 数は少ないとはいえ、こうした皆さんに対する、これが福祉の考え方ですので、ぜひとも検討をいただきたいと思います。

平成 26 年第 410 回信濃町議会定例会 12 月会議会議録 (2 日目)

次に2次交通、駅を中心としたバスについて、伺ってまいりたいと思います。バスについては、何回も質問をさせていただいております。なぜここにこだわるか、というところから始めたいと思いますけれども、一番の問題はやはり、赤字による撤退から始まりまして、減便、そして業務委託、この流れの中で、日中の黒姫駅、古間駅と電車のリンクがなくなったこと、これがまず一点。それと、土日、祝日に運行しなくなってきた、これはちょっとやはり観光地として、あるいは土日でも長野まで出たいという地域、集落の皆さん、バスを使いたいという皆さんの声を、どう反映するのか、そこから始めた話であります。特に、当町の場合、委託業務であります、バスに関しては、どちらが主導権を持つかというようなことは、この際置いておきまして、やはり委託でありますので、おのずと限界はあろうかなと思います。しかしながら、公共交通というのは、1年365日、始発から終発まで責任を持つというのが、公共交通の在り方であると思います。

町長、現状の、この土日運休になる路線バスについて、どう考えておられるか、伺います。

●議長 (小林幸雄) 横川町長。

■町長 (横川正知) どうしても、この採算も含めて検討してきたという経過もあるように聞いています。そういう中で土曜日、日曜日というのは、乗降のお客さんが極めて少ないという試算の上で、土曜日、日曜日については、運行は勘弁願いたいというような経過できていると、そのことを今までも大変なご苦勞をいただいて、いろいろと計画を作って、今に至っているわけですが、この後、いろいろご不便なところがあるということになれば、私もこういう、何て言いますか、選挙上も、訴えさせていただきました。解決できる問題があるならば、やっぱりそれはそれとして、町民の皆さんが、より利用しやすい、その方向で努力していかなきゃいけないということは前提としつつ、いろいろな他の交通機関の皆さんのお立場もあつたりするかと思いますので、その辺の中で、いずれにしても、もう一步進めて良い方法が取れるかどうか、絶えず、これは研究していく課題だろうというように思っています。現状等について、所管の課長の方から申し上げさせていただきます。

●議長 (小林幸雄) 北村総務課長。

■総務課長 (北村政光) まず、現状の路線バスの運行形態でございますが、これにつきましては、基本的には、朝夕の小中学校への通学時間、それから黒姫駅と古間駅の通勤時間を考慮しまして、設定しているものでございます。先ほどご質問のありました、昼間のリンクの関係でございますが、これにつきましては、私どもとしましては、若干、考慮いたしまして、デマンドタクシーですか、そちらの方で、時間にもよるんですけども、黒姫駅の11時11分、14時10分、それから、帰宅につきましては、9時59分、11時11分着、それから12時着ですか、あと14時10分等々ございます。それら、若干

平成 26 年第 410 回信濃町議会定例会 12 月会議会議録 (2 日目)

考慮いたしまして、リンクできるようには、考えているところではございます。以上です。

●議長 (小林幸雄) 酒井聡議員。

◆7 番 (酒井 聡) デマンドのお話が出ました。現在、確か 6 台で運行されていると思います。高校生のことばかりで恐縮なんですけれども、高校生は必ずしも、夕方 5 時、6 時の電車で帰ってくるわけではございません。学校の都合であるとか、あるいは個人の体調の都合で、1 時、2 時、早めに帰って来るというケースもあります。駅から家まで帰れないというのは、何よりかわいそうなことではないかなと思います。デマンドというものがあるのであれば、例えば、通学デマンド形式ですとか、そういったようなことも、考えられなくはないだろうか。また、どうしてもやはり、各集落から町の中心部に向かって病院、あるいは駅に向かってというのが、基本的なデマンドの使われ方になっておりますけれども、そうではなく、例えば、放射状のみならず、横と横とをつなげるというような、そういったフレックスな使われ方はできないだろうか、そういうことも考えるわけですが、見解を伺います。

●議長 (小林幸雄) 北村総務課長。

■総務課長 (北村政光) デマンドの関係につきましては、議員さんがおっしゃるとおり、当初考えているものでございます。ただ、長も申し上げましたとおり、他の民間の交通機関等の関係もございまして、それらを考えまして、若干、必ずしも便宜を図れるような状況にはないというのも、事実でございます。そのようなことで、今のところは、現状維持でございますが、正直申しまして、これの運行形態につきましては、地域公共交通協議会等でいろいろ審議をいたしまして、より良い利用形態を考えていきたいというように考えておりますので、また、長も変わりましたので、その辺の方向性等につきましては、改めて、検討していきたいというように考えております。以上です。

●議長 (小林幸雄) 酒井聡議員。

◆7 番 (酒井 聡) 是非とも、利便性のあるものを作り上げることが何よりであります。それを、希望するところなんですけれども、そのためにと言いますか、再三、対策する部署、専門部署を設けてはどうかということを、2 度ほど質問させていただいておまして、その時の答弁ですけれども、予算の量、仕事の量から見ても、別に係として、独立をするほどのものではないだろうという答弁が 2 回ほどありました。今度は、駅のホームに、職員を派遣するような話も若干、聞いているわけなんですけれども、現場の目線で、係が理想なんでしょうけれども、責任を持てる部署というものを創設してみてもどうか。何度も申し上げます、係をつくるのが目的ではなく、利便性を損なわないために、現

平成 26 年第 410 回信濃町議会定例会 12 月会議会議録 (2 日目)

場で目を光らせる、これが目的であろうかと思えますけれども、係を創設してみてもどうかということ、もう 1 回、提案させていただきます。見解を伺います。

●議長 (小林幸雄) 横川町長。

■町長 (横川正知) 今の、何て言いますか、交通施策、あるいはこれから、しなの鉄道の駅業務を含めての、そういったセクションだけでの職員の配置というのは、なかなか現実問題として、それほど大きくないこの町にとって、難しいことかなというふうに思うんですね。これは、その中で、どういう工夫を凝らして、また、町民の皆さん方の、いわゆる要望に応じていかれるかということ、最大限に、当然考えていかなきゃいけないのですが、その辺も含めて、対応をしたいというふうに思うのですが、現状の中で、新たな職員体制として配置するというのは、ちょっと今の段階では、私自身は考えておりません。

●議長 (小林幸雄) 酒井聡議員。

◆7 番 (酒井 聡) 今までのこの、本日の質問の中で、バスに関する質問は総務課長が答えられております。鉄道に関する事、振興局に関する事、おそらく産業観光課長になると思います。せめて、ここだけでも一本化はできないものでしょうか。伺います。

●議長 (小林幸雄) 横川町長。

■町長 (横川正知) それは、今までの経過がございますので、今後どういうふうにするかということは、また考えさせていただきます。

●議長 (小林幸雄) 酒井聡議員。

◆7 番 (酒井 聡) そうなると、3 月まで時間も残り少ないということを考えますと、齟齬 (そご) のないように連携を取って、ということをお願いするしかないわけですが、是非とも、また考えていただきたいと思います。利便性を失った地区に住んでいる子供たちというのは、否応なしに都市部に流れる傾向、これ全国的であります。人口流出の根本に、こういうところも絡んでいるということ、十分自覚していただいて、今後の交通施策、公共交通施策に当たっていただきたいとお願いをしまして、次に移ります。

人口減少対策について伺ってまいります。町長も、これ喫緊な課題であると。私も、もちろんそう思っております。人口減少がなぜ起きるのかということ、一般的に言われていることですが、社会というものが発展して成熟していくと、言い方を変えますと、発展途上国から工業先進国へ移行をする。そうすると、人間一人ひとりに対するサービスというものが、湧いてくるわけです。保険であるとか金融であるとか、そうい

った複雑なサービスが増えてくる。生きるということ自体が、単純ではなくなってくる。故に、少子化が起りやすいと、ある雑誌で読んだことがあります。簡単に言いますと、働き手を人海戦術に求める社会から、個人というものの価値観を高めたがゆえに、自然に発生するのが少子化であろう、と書いてありました。私も、理解をしながら読むのは大変だったんですけども、それが、一般的に言える人口減少化というものだそうです。しかし、この問題は自分たちが今生きていること以上に、自分たちの将来に影を落とす、人口減少問題というのは、自分たちの将来にも影を落とす部分であります。当然、働き手が減っていくということは、国、あるいは地域の経済力を減退させることになります。今の社会保障制度、年金を中心に、そうしたものは、現役世代が支えていかなければならない社会保障であります。それが、若い世代の人口が減っていくことによって、破綻とまでは言いませんが、かなり危機的な状態になるであろうということは、もう今から分かっていることであります。この時代に、およそ政治を志す者、必ずしも避けて通れないのが人口減少対策であり、これをテーマにしなければならぬとさえ、言われているところであります。

町長、まず組織づくりから、この人口減少対策に取り組みたいと、午前中の北村議員さんの質問にも答えておられましたが、まず、それは一つとして、町長の思う打開策、これを伺いたいと思います。

●議長 (小林幸雄) 横川町長。

■町長 (横川正知) 決め手というのは、なかなか難しいですね、お答えするのに。私は、先ほども申し上げたでしょうか、やっぱり信濃町、この町の良さ、素晴らしさ、あるいは住みやすさ、魅力、そういったものが、この町に住んでみたいというような思いになるんだろうと思うんですね。そういった要件があって、その中で、総合力として、最終的には、この信濃町というものを、高めていかなきゃいけないという思いなんです。ただ、私はその中で、ただ腕を組んでいても、いきなりその総合力なんて上がりっこないという認識を持っているもんですから、当然、皆さん方もそうだと思うのですが、そういう中で、何かやっぱり進めていかなきゃいけない。

一つは、多くの皆さん方がこの信濃町に、町外からも既にもう移住と言いますか、お越しになられて住んでおられるんですね。私は改めて、そういう皆さん方のお考えと言いますか、私どもの気付かない信濃町の良さというものを再認識しながら、そういうことを含めて、全国に発信をしていく。そして前にも申し上げたんですけども、この長野県に住んでみたいというのが、全国のアンケート上の中でも、長野県は1位なんですね。そういったことをしっかりと踏まえつつ、情報として、全国に情報発信をしていく、そのことが必要だろうと。

そういう種をまきながら、いろいろなことに、また、まさにあらゆるということ、私、使っていますが、例えば、役場の中の組織、一人ひとりの職員が仕事をしていますが、やっぱりいろいろな意味で、そこにつながるんだという思いを、自信を持ちながら進めて

平成 26 年第 410 回信濃町議会定例会 12 月会議会議録 (2 日目)

いかないと、その目的達成はなかなか難しいということになってきますので、組織力として、共通の認識をそこに置きながら、この町の将来というものについて、みんなで真剣になって考えながら、その目的達成と言いますか、非常に難しい課題だということは、私自身は、承知はしているんです。ですけれども、そこにあえて挑んでいかないと、この町は、という、非常に危惧をしているという部分もあるんです。

だから、皆さんの中に、「いや、人口は少なくても、いくらでも活力は出るよ。」と、こういうお考えの皆さんがおります。いらっしゃいますけれども、私自身は、基本は、この活力の源というのは、人であると。人というのは、つまり人口である。その数が、かなり減ってくるということになりますと、地域の活力も、集落の活力も、町の活力も落ちてくると、そういう意味で、先ほど、危機感という言葉、あえて使わせていただいたのですが、そういうスタンスに立って、この町づくりというものを、将来的にも考えていきたいという方向で進めたいと思います。

●議長 (小林幸雄) 酒井聡議員。

◆7 番 (酒井 聡) 私も、かつては人口増と言っておりました。しかし、現実的なことを考えると、人口減少をいかに食い止めるかに手一杯のようで、これがなかなか結構難しい問題になっています。これが、本当に現実的なところで、個々それぞれの考えを持って当たらなければいけないのだろうと思います。11 月末現在で 9100 人でしたか、105 人でしたか、町長の思い描く人口、何人ぐらいが適正もしくは、このぐらい目標にしたい、これを伺いたいと思います。

●議長 (小林幸雄) 横川町長。

■町長 (横川正知) 私は、これ以上減らさないというのが、一つの目標なんですね。一時、平成の大合併という進み方がありましたが、その時に、国で進めているその合併を推進する側からした中では、人口 1 万人という一つの基準を出されたことがあったんですね。1 万人というのは、これからまさに、長期振興計画の後期計画の見直しもやっておりますが、それはそれで一つの目標値であっていいと思うんですね。町づくりのある面、夢とまでいかななくても現実、そこまで手が届くか届かないかという目標設定することは、行政では大変重要なことだと思います。そういう面からすると、人口 1 万人というのは、本当に町村レベルと言いますか、面積の問題もあるんですが、色々な面で考えた時には、それがやはり一つの基準なのかなというふうに思っています。

●議長 (小林幸雄) 酒井聡議員。

◆7 番 (酒井 聡) 今、人口 1 万という言葉が出てまいりました。町が今まで推し進めてまいりました、例えば、下水道の施策であったり、病院の問題であったり、何が基軸

平成 26 年第 410 回信濃町議会定例会 12 月会議会議録 (2 日目)

になっていたかということ、人口 1 万人いた頃の、1 万人を維持するというのが、多分基軸になっていたのではないかと思います。そういったインフラに対して、これから町も、財政のこともあります。債権を返していかなければいけないという、重大なテーマもあります。改めて、最低限何人ぐらいがギリギリのラインか、町長の思い描くところを、もう 1 回、お願いします。

●議長 (小林幸雄) 横川町長。

■町長 (横川正知) なかなかお答えするのが、難しいんですが、私は、だから少なくとも 9000 人という数字は、これはある面では目に見えているんですよ、この今までの経過を見ていると。この推移でいけば、来年の私の予測では、このままでいったら、お盆過ぎには、約 8000 人台に入るだろうというふうに、お盆過ぎか、まあその頃ですね。という、今までの流れでの予想を持っているから、そのことを真剣に受けとめて、進めようとしているわけで、やっぱり限りなく、今の人口に近いのを維持していくというのが、最低限の努力目標になるのかなと思うんですね。

もう一つ、付け加えさせていただければ、人口増は難しいんです。これ、全国的にも難しいということは、議員の皆さん方もご承知かと思うんです。要は、いかに、減るのを減らしていくかということにこだわるわけですが、それと同時に、やっぱりこの信濃町で、ここに定住している皆さん方だけではなくて、いかに交流人口を深めていくかということも、非常にこれから大事な町づくりの一つになってくるだろうというふうに思うんですね。そういう意味で、ちょっと話が飛んで申し訳ないのですが、そういう意味も含めて私は、丸ごと観光地という言葉も、あえて使わせていただいているところが、そこにも一つあるんです。以上です。

●議長 (小林幸雄) 酒井聡議員。

◆7 番 (酒井 聡) 町長の思うところ、今伺いました。ここで、今まで町が推し進めてきた若者定住施策、これをちょっと検証しながら伺ってまいりたいと思います。基本的に、住宅の確保と町内での雇用先の創出、この 2 本柱であったかと思います。

まず、住宅についてですけれども、候補予定地として、当然利便性がある所、駅が近い、保育園が近い、そういった所が候補に挙がるのは、それは、言うまでもないことですが、問題は 8 部屋程度、程度と言うと怒られますけれども、8 部屋から 10 部屋のそのアパート形式のものをつくるのに、候補地が二転三転して、未だに着工のめどすら立っていない、まだ候補地の選択の段階であるということ、これが仮に 50 戸、40 戸入るマンション形式のものだったら、それはまだ理解はできますけれども、この遅れについて、町長の見解を伺います。

●議長 (小林幸雄) 横川町長。

■町長 (横川正知) これは、なかなか申し上げるのも難しいんですが、私は、やっぱり基本的な準備不足だったというように、言わざるを得ないと思うんですね。物事を進めるにあたっては、基本的に、基礎的な調査も含めて、そしてその目標に向かうということだろうと思うんですが、あまりそのことをぶり返してもいけないなと思いつつ、申し上げるんですが、そういうことが、一つの大きな原因の一つにあるのかなということ、申し上げさせていただきます。

●議長 (小林幸雄) 酒井聡議員。

◆7 番 (酒井 聡) それでは、この路線に対する町長の方針、この策をそのまま推し進めるという方針をお持ちなのか、それをまず、伺いたと思います。

●議長 (小林幸雄) 横川町長。

■町長 (横川正知) 住宅の確保というのは、いわゆる集合住宅としての、今の考え方で進めるのか、それから、私はもう一つは、これも訴えさせていただいた内容の一つなんですが、空き家対策というのもあるわけです。空き家の活用。これ、本当に家主さんのご理解をいただけないと進めない、という前提があるのですが、そういう皆さん方に、ご理解をいただきながら、仮に、新規就農の農業で携わりたいという方が、町外から、あるいは町内も含めて、やりたいと言った時に、集合住宅で、果たしてその皆さんが満たされるかという、決してそうではないだろう、いろいろな状況が考えられると思うんですね。ですから、集合住宅にしても、これは、例えば、部分的に考えれば、医療スタッフ、今、信越病院も含めて、医療スタッフが来ても、なかなか住む場所がないとか、そういう問題もお聞きしていますが、そういう部分も必要には必要なんです。ですから、そのことを全て、状況を考えながら、住宅施策も進めていかなければいけないというように思っています。

●議長 (小林幸雄) 酒井聡議員。

◆7 番 (酒井 聡) 今、空き家の有効活用というお話ありました。確かに、これも深刻な問題であります。空き家が廃屋化するというのが、最も危惧しなければならないことでもあります。移住して住まわれる人には、ニーズというものはあるかと思えます。目の前に田畑があって、一戸建てだけれども、やっぱりそこがいいと言う方もおられるし、駅の近くだからアパートがいいと、それはそれぞれのニーズの問題であります。ぜひ、マッチするように施策を進めていただきたいと、提案させていただきます。

次に、雇用先の創出、これもまた、もう一つの柱として、町が推し進めてきた施策であります。いわゆる、大手企業の撤退から始まって人口の流出というのが始まったので

はないか、働き手の人口がどんどん外に出ていったのではないかと、私はそう見ているわけですが、企業誘致、町内にも 1 社来ていただいた。手を挙げて、来ていただいたということもございます。しかしながら、今後の国内経済の状況ですとか、そういったものを見た場合に、果たして今後、どれだけの企業さんが信濃町の提案に対して、「信濃町で事業を展開したい」と来ていただけるのかというのは、正直私は、疑問符を持っているんですけれども、町長は、この企業誘致に関しての方針、今後どうされていくのかということ、伺いたいと思います。

●議長 (小林幸雄) 横川町長。

■町長 (横川正知) 働く場の確保という面からは、当然に継続して、この企業誘致というのでも進めていかなければならないと思っています。そしてまた、時代時代の中で、色々な交通、道路も含めて、交通手段も良くなってきているわけですね。むしろ、むしろと言いますか、そのことも踏まえた時に、この近隣と言いますと、長野市が近いわけなんです。長野市とは、これぐらいの距離で行かれるんですよ。つまり、30 分ぐらいで行かれますよ。上越、妙高市方面についても、そういうことで行かれますよ。飯山にもこうですよという、信濃町の立地条件を生かして、全体的にそのことも含めて、移住と言いますか、進めていくのも一つだろうと。あまり、信濃町の中、中と、これも大事なことなんです。大事なことなんです、その他にやっぱり、そういうスタンスを持たないと、極めて限定された行動になってしまうだろうと思うので、その辺も含めて、対応をしていくことが、大事なのではないかなと思っています。

●議長 (小林幸雄) 酒井聡議員。

◆7 番 (酒井 聡) 後ほど伺おうと思った事を先に今言われてしまいましたので、続けますけれども、信濃町の立地ということ考えた時に、確かに今、町長がおっしゃられたとおりなんです。長野、上越、飯山、この 3 角形のちょうど中心に当たるのが、信濃町の立地であります。唯一の問題は、雪が多くて通いづらいという、ただその一点であります。私も東京でサラリーマン暮らしをしております、電車で 30 分・1 時間というのは、それは普通に通勤をして、体に良いか悪いかは別ですけれども、それが普通だと思っていました。しかしながら、ここに住んでおりますと、車で 20 分・10 分は遠い、そういう感覚になってしまうんですけれども、であるならばむしろ、1 回そういった都市部で、そういった経験をされた皆さんの方が、かえってこの立地を、良い所だと改めて再確認できるのではないかと思います。そういった所の魅力をアピールして、通勤圏としての信濃町、これをアピールするような施策を打っていかれるならと思うのですが、見解を伺います。

●議長 (小林幸雄) 横川町長。

平成 26 年第 410 回信濃町議会定例会 12 月会議会議録 (2 日目)

■町長（横川正知） この点のことも、私もまったくそのとおりだと思いますので、併せて、並行して、そういうことも進めていきたいと思います。

●議長（小林幸雄） 酒井聡議員。

◆7 番（酒井 聡） 時間がまいりましたので、そろそろまとめたいと思いますけれども、今日は集落の維持に関して、ちょっと時間がなくなりましたので、また次回、改めてやりたいと思います。

いずれにしても、公共交通、それと若者に不便さを与えないということ、若者が流出する最大の理由、これはもう、やりたいことがあると言ってしまえば個人の自由ですから、夢を追いかけるというのも大事なことですけれども、自分の生まれ育った町を大切にしていきたい、というメッセージも、私はやっぱり、若い世代に伝えたいことの一つであります。そのために、不便であるとか、そういった障害を取り除くのが、我々大人たちの仕事ではないかなと思います。町に対して、そういった公共交通ですとか、企業誘致もそうです、通勤圏としての施策を進めるということもそうです。若い高校生の皆さん、それと高校生をお持ちの親御さんも含めて、「若い世代に夢を」というのが、これから先、人口を減らさないための打開策と言えば、打開策なのかなと思います。最後に、見解を伺って、質問を終わりたいと思います。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） 若い皆さんも、非常に大切でございます。そういう意味では、仮称ですが、若者会議ということで、ご意見も頂戴したいという思いも持っておりますし、若い皆さんの中で、やっぱり私は、この行動を通じて若い皆さんから言われた言葉、非常に耳に残っている言葉があるんです。「楽しくなければ、この町は面白くない。」と、そういう言葉を言われた若手がいるんですね。私はまさに、若い皆さん、楽しさというのは、どういうふうに捉えるかは別としても、楽しめる町じゃないと、心豊かな町じゃないと、魅力がないというような思いで言ったんじゃないかなと、私自身の理解をしているんですが、そういう思いも大切にしながら、皆さん方のお知恵をお借りしながら、頑張っていきたいというふうに思います。

●議長（小林幸雄） 酒井聡議員。

◆7 番（酒井 聡） 以上、終わります。

●議長（小林幸雄） 関連質問のある方。5 番、永原議員。

平成 26 年第 410 回信濃町議会定例会 12 月会議会議録 (2 日目)

◆5 番 (永原和男) 5 番、永原和男です。関連質問を許されましたので、只今の酒井議員の一般質問中に、雇用促進住宅の話がございました。この雇用促進住宅につきましては、25 年度、事業が計画され、それが変更となり、26 年度も計画をされ、またそれが変更になってきた事実がございしますが、私、二転三転とは申し上げませんが、黒姫駅西側に、雇用促進住宅を造るという計画は、現在進行しているというふうに、私も認識をしておいたわけですが、まずその経過について、お伺いしたいと思います。町長は就任間もないわけでありますから、雇用促進住宅については、空き家対策に移行するので今まで進行していた事業が、これでストップするんだと、そういう意味じゃないんだろうというふうに、十分思うわけでありますが、現在進められている雇用促進住宅の進行状況、見通しについて、質問をいたします。

●議長 (小林幸雄) 伊藤産業観光課長。

■産業観光課長 (伊藤 均) この問題につきましては、住民の皆さんはじめ、議員の皆さんに、ご迷惑をお掛けした部分もありまして、この場をお借りして、お詫び申し上げたいと思っております。その原因といたしまして、2 回ございまして、住民の合意が得られなかったと、あと次の候補地の時に思わぬ湧水が出たという中で、その都度、議会の全員協議会の中で説明をさせていただき、その後、候補地として、議員さんが申されました西口の町有地に、現在ですね、設計をほぼ完了いたしまして、27 年度、建設に向けて、今最後の詰めを行っている状況です。以上です。

●議長 (小林幸雄) 永原和男議員。

◆5 番 (永原和男) 経過は分かりますから、それはそれとします。この関連質問の中で、この経過については伺うことはしません。そうしますと、現在まだ設計の段階ということですか。どうなんでしょう。

●議長 (小林幸雄) 伊藤産業観光課長。

■産業観光課長 (伊藤 均) 今、26 年度中には設計が終わり、27 年度に着工、入札いたします。

●議長 (小林幸雄) 永原和男議員。

◆5 番 (永原和男) これは、私の認識不足なんですか。そうしますと、この事業は、繰越事業になるということですか。当初予算の段階では、26 年度事業として位置付けられていたというふうに思うのですが、11 月の前半の今現在、やっと設計が終わろうとしていると。それは、私それで、ご苦労さんだったと思うんですよ。これから着工して、

平成 26 年第 410 回信濃町議会定例会 12 月会議会議録 (2 日目)

年度内完成というのは、素人の私にも無理なことじゃないかというふうに危惧するわけですが、もう一度説明をお願いいたします。

●議長 (小林幸雄) 伊藤産業観光課長。

■産業観光課長 (伊藤 均) 建設につきましては、ご理解をいただきまして、予算等減額させていただいて、設計のみを 26 年度でお願いをしております。以上です。

●議長 (小林幸雄) 永原和男議員。

◆5 番 (永原和男) 私も、期待があまりにも大き過ぎたものですから、ちょっと私の認識が誤っておりました。そこは、私も訂正いたします。

さてそれで、設計の段階でお伺いするんですが、その仕様といいますか、どのような集合住宅になろうとしているのか、例えば、今の言葉で言うと、何系の何かとか、そういうのもありますよね。その建物の仕様について、設計で形が出来てきたようでありますので、説明をお願いします。

●議長 (小林幸雄) 伊藤産業観光課長。

■産業観光課長 (伊藤 均) 雇用促進住宅でございますので、一応独身者を対象といたしまして、一応 2 階建てで、雪の関係もございますので車庫等、外付きになっております。以上です。

●議長 (小林幸雄) 永原和男議員。

◆5 番 (永原和男) 車庫が、それぞれあるんだということですよ。1 棟に 1 台の車が入る車庫が付くということでもあります。それで、12 月の現段階では設計が終了し、27 年度事業として、建設が始まるということではありますが、私、念のためにお伺いするんですが、現段階での建設に向けての何か課題、抱えているようなことはないでしょうか。

●議長 (小林幸雄) 伊藤産業観光課長。

■産業観光課長 (伊藤 均) 関係建設等、道路の付け替え等もございまして、水路等のものもありまして、協議が終わってございまして、今のところ、課題等は残っておりません。

●議長 (小林幸雄) 永原和男議員。

平成 26 年第 410 回信濃町議会定例会 12 月会議会議録(2 日目)

◆5 番(永原和男) くどいようですが、それでは、課題がないということは確認できました。未解決な問題はありませんか。建設に向けて、未解決の問題を抱えているということはありませんか。

●議長(小林幸雄) 伊藤産業観光課長。

■産業観光課長(伊藤 均) 今、私の承知しているところでは、ありません。

●議長(小林幸雄) 永原和男議員。

◆5 番(永原和男) ありがとうございました。私、くどいような質問をして、甚だ恐縮だったのですが、これは、多くの町民の方が期待をしている事業なんですね。せっかく設計まで来て、思わぬことが生じないように、今若干、くどいような質問で恐縮でしたが、質問をさせていただきました。27 年度早期に着工をし、早期に完成され、そのことが、今の議論の中になりましたように、結果として雇用の拡大、あるいは定住者の拡大にもつながるように、慎重かつスピード感を持って、進めていただくことを要望いたしまして、関連質問を終わります。

●議長(小林幸雄) 以上で、酒井聡議員の一般質問を終わります。
この際、3 時 25 分まで休憩といたします。

(午後 3 時 12 分)